

## 令和6年度 学生 FD CHAmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

日本大学では、FD 活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成25年度より、16学部95学科、短期大学部4学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生FD や本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生FD CHAmiT (ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から200名以上の参加者を得て開催しております。令和2年度及び令和3年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン (Zoom) 開催とし、令和4年度はハイブリッド方式、令和5年度は完全対面方式が復活いたしました。

第12回目となる令和6年度においては、テーマを「魅力・強みの再発見～日大をどう活かす?～」とし、自分が所属する学部、学科の魅力や強みは何なのか、他学部がもっている授業の魅力や強みは何なのか、それらを把握したうえで自分たちが今後の日本大学の教育、主に授業形態をどのように改善・活かしていきたいのか意見を出し合いました。それらを踏まえ、最終的に「学部に望む授業」「全学部に関わる項目」を提案書として作成しました。

学生からの提案を受けて、効果的な教育改善の実現に繋がるよう、薬学部において学生との協議の場を設け、学生・教員・職員の三者で協議した上で「学生への回答書」を作成いたしましたので、御覧いただきますようお願いいたします。

今後も薬学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。

日本大学 FD 推進センター  
日本大学薬学部 FD 委員会

# 令和6年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

## 1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和6年12月16日	CHAmmiT参加者（教職員含む）及び薬学部FD委員会委員長，委員の計9名が対面で，学部提案書の実現に向けて，70分程度意見を共有いたしました。

## 2 薬学部から学生へのメッセージ

学生FD CHAmmiTを通して，学生の皆さんから様々な授業改善に関する建設的な御意見を御提案いただくことができました。忙しい中で学生FD CHAmmiTに御参加いただいた学生の皆さん，誠にありがとうございました。また，御提案いただいた意見について，FD委員会の委員及び学生FD CHAmmiT参加者で協議を行いました。授業改善を望む学生の生の声を聞くことができ，有意義な意見交換となりました。

「学生が望む授業」に関する提案について，率直な意見を真摯に受け止め，多くの授業において学生の満足度がより高まるよう，検討を続けてまいります。学生の皆さんにおかれましては，FD活動を始めとした教育改革を通して学修環境を改善し，自身の学修をより実りのあるものにしていただければと思います。

## 3 学部提案書の対応について

### 「学部に見る授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
治療法のない疾患についての授業をしてほしい。 【理由】薬と結びつかない（治せない）疾患についても薬剤師として知っておいた方が良いため。			○	現在も一部の疾患については，病態の講義で取り扱っておりますので，受講者がしっかり認識・区別できるようにしていきます。しかし，薬学部の授業のおよそ7割が薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った内容となっておりますので，それ以外に設置しているアドバンスの科目で取り扱うことを検討していきます。
先生方（できれば全員）が他の先生方の授業を参考にし，授業全体の質を向上してほしい。 文字の大きさや，見えにくいので使わないほうがいい色（黄色）など，見やすいスライドの作り方を，教員に講座や資料で伝授し，参考にしてほしい。		○		授業全体の質を向上させることは，学部内でも取り組んでいくべき事項です。来年度より授業評価を用いて，評価の高い教員の授業を模範授業として視聴してもらうことを検討しております。 また，講義資料（スライド含む）作成にあたっては，見えにくいので使わない方がいい色など，すぐに対応できる部分につきましては，周知をしていきます。 科目により図や文字の適正なサイズが異なるため，講義資料の作成方法は各科目の教員に一任しておりますので，統一することは難しい状況です。授業を受講している際に資料が見えづらいことがございましたら，授業後にメールなどで教員へお伝えいただけますとすぐに対応が可能です。各講義担当者にはその旨周知いたしますので，御協力ください。
授業前（前日まで）に授業の資料をまとめて配布してほしい。 【理由】事前に授業準備ができることで理解度が上がるため。また，シラバスには授業内容の大枠しか書かれていないため事前に準備が出来ないため。	○			以前は授業前日までに資料を配布していませんでしたが，現在では，講義資料は予習を推奨している観点から前日までにLMSに公開するように教員に周知し，講義資料の事前公開を徹底しております。 学生の授業理解度の向上のため，今後ともこの取り組みは継続してまいります。
レポートなどに関して，教員側からのフィードバックをしっかりとってほしい（希望者のみにするなど時間面を対策）。 【理由】教員からの意見などをもらえることで課題内容により興味を持つことができ，授業のモチベーションが上がるため。	○			レポート課題については，各科目において各々フィードバック方法をシラバスに明記しております。フィードバック後，さらに質問等があれば，オフィスアワーの時間を設けておりますので，その時間を利用することも検討してください。
グループワークの進め方などのグループワークコーチングを自主創造の基礎などで取り入れてほしい。 また，医学・歯学・薬学で医療系ワールド・カフェを行いたい。 【理由】将来，医者や看護師と連携を取る際に必要になるため。	○			カリキュラム改正後は，1年次「自主創造の基礎」の第7週から第13週において，グループワークの進め方についての基本事項を学び，多くの時間でグループワークを経験しています。 また，医療系学部の交流については，1年生必修科目「早期臨床体験」で医学部，薬学部，看護専門学校の学生により，共通の問題を討議する，専門職連携教育（Interprofessional Education: IPE）を新カリキュラムに移行した令和4年度より導入しております。

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<p>授業と卒業後の進路を関連付けてほしい。また、実際の病院や研究でどのように活かされているかなど、授業に取り入れてほしい。</p> <p>【理由】授業内容が卒業後で活かされているイメージができた方がモチベーションに繋がるため。また、具体的な内容で理解が深まったり、先生たちの研究内容を聞くことで、大学院への進学を考えるきっかけになるため。</p>			○	<p>病院や薬局での業務経験を生かした話や、専門の研究内容をもとにした講義などが学生の学習意欲の向上につながるのお話を伺いましたので、今後、実務家教員を含む全ての講義担当教員へ周知していきたいと思ひます。</p>
<p>1年生から研究室のツアーや実習を行ってほしい。</p> <p>【理由】研究室でどのようなことをしているかを低学年から知ること、4年生の卒業研究室選びに役立つため。</p>			○	<p>実習については、新カリキュラムに移行した令和4年度より1年次科目「基礎薬学実習」を導入しております。</p> <p>また、令和6年度入学者より3年生から研究室に配属できる「研究室早期配属制度」の導入を予定しております。本制度は3年生の成績上位者を対象として実施し、現在の4年生の研究室配属より1年早く研究活動を行うことで、研究の重要性を認識し、自分の将来像を明確に描くことに繋がることを期待しております。</p> <p>卒業研究の配属にあたり、研究室紹介を低学年から実施していくことを検討いたします。具体的には、4年生向けの研究室紹介を1～3年生も参加可能とする、また、春に実施するオープンキャンパスを利用し、研究室紹介コーナーを1～3年生向けに公開する等を検討します。</p>
<p>関連科目の担当者間でコミュニケーションをとり、授業の進捗状況などを共有してほしい。</p>			○	<p>現在、生物系の科目担当者間（機能形態学・薬理学・病態等）で授業の連携を深めていこうと考えております。しかし、同じ内容を取り扱うことはもちろんあり、一つの事象を複数の科目から見ることで、理解が深まることかと考えています。この連携を強化することにより、いずれの科目でも取り扱っていない単元がないようにいたします。この生物系での取り組みをモデルケースとして、物理系や化学系科目の担当者間で連携し、より良い授業の実現に繋げていきたいと思ひます。</p> <p>なお、現在の履修系統図についても受講者が直感的にわかるような図の作成を関連委員会と協議してまいります。</p>
<p>ESシートの書き方、業界研究の進め方など、就職関係の講座を充実させてほしい。</p>			○	<p>コロナ禍ではオンラインでの実施でしたが、就職関係のプログラムにつきましては、現在、講義の空き時間などに頻回に対面で開催しておりますので、是非、積極的に参加してください。また、業界研究の講座につきましては、より具体的な内容（どの部分を比較するとよいのか）を聞きたい、との意見をいただきましたので、就職活動の支援をより充実させていきたいと思ひます。特に、業界研究の具体的な進め方につきましては、令和4年度よりキャリアカウンセラーによる個別相談ルーム、CCR（キャリア・カウンセリング・ルーム）を開設しておりますので、そちらを是非御活用ください。</p>
<p>グループワークで予習を行ってきた人・発言した人が評価される授業を行ってほしい。</p> <p>【理由】多くの時間を費やして予習をしても、個別の評価割合が少なく、予習をしていない学生との差がないため。</p>			○	<p>授業態度を成績評価にしている科目については、全体の評価だけでなく、グループワークに積極的に取り組んでいるかどうか成績評価の対象としております。また、授業態度等については、何を基準に評価がなされているのか分かるように具体的にシラバスに明記するように教員に周知しております。</p> <p>今後は、グループワークでの成績評価については、科目責任者の裁量に任されていますが、ガイダンスで詳細に説明し、予習の方法などを事前に周知するよう徹底いたします。</p> <p>具体的に要望のありました「EBMと薬物治療」につきましては、個人評価の割合が低く、勉強してきた学生が評価されていないと伺いましたので、FD委員会より科目責任者へお伝えいたします。学習意欲向上につながる成績評価となるよう、シラバスの記載内容や評価方法を精査し、FD委員会でもその状況を注視してまいります。</p>

※令和7年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。